工事説明書　長府工産株式会社

石油小形給湯機（屋内外兼用）	
品　名	CBX-P4700E

■ 特定保守製品

本製品は、消費生活用製品安全法(消安法)の長期使用製品安全点検制度で指定されている特定保守製品です。

■ 工事される方へ

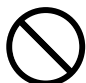
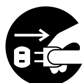
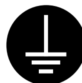
所有者票を必ず販売事業者さまへ渡してください。
(所有者票は、取扱説明書のナイロン袋内に付属しています)

・この工事説明書の記載内容をはずれた設置が原因で生じた故障および損傷は、保証期間内であっても保証の対象となりません。
・設置工事が終わったら、この工事説明書にもとづいて設置されていることを確認してください。
・工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡してください。

安全のため必ずお守りください

工事を誤った場合に生じる危害・損害の程度を、次のように区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

	この表示を無視して、誤った工事をすると、人が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った工事をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 一般的な禁止
 電源プラグを抜け
 必ずアースを接続せよ
 必ずおこなうこと

⚠ 警告

■火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る



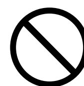
■設置や移動は、販売店へ依頼する

設置や移動は、必ず販売店へ依頼する。
ご自分で設置され工事に不備があると、感電や火災の原因になります。



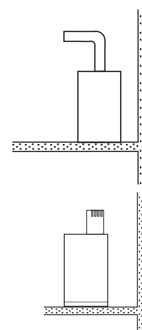
■屋内排気禁止

屋内に排気すると排気ガスが屋内に充満して危険です。
必ず屋外に排気する。



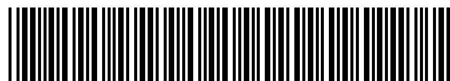
■屋内設置禁止

【屋外排気筒トップ(別売)を取り付け、屋外で使用する場合】
必ず屋外に設置する。排気ガスが屋内に充満して危険です。





SEB8224 ①



⚠ 警告

■排気筒は確実に接続

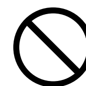
排気筒を確実に接続し、しっかりと固定する。

風、振動、衝撃などではずれたりすると運転中に排気ガスが屋内にもれて危険です。



⚠ 注意

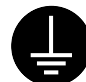
■次の場所には設置しないでください



火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定なものをのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段・避難口などの付近で、避難の支障となる場所
- 浴槽と同一室内
- 標高 1000m をこえる高地
  （標高 500 ～ 1000m で使用する場合は「4. 電気配線工事・高地対応」の項を参照）
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、または換気のおこなえない場所

■接地（アース）工事をする



アース工事を確実におこなう。

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

アース工事は販売店にご相談ください。

■ゴム製送油管の屋外使用禁止



ゴム製送油管を屋外で使用しない。

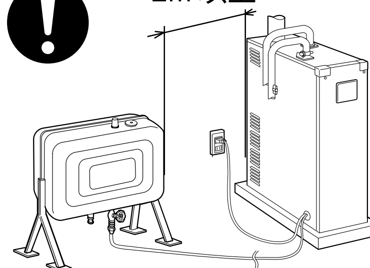
ひび割れを生じ、油漏れによる火災がおこるおそれがあります。

※屋外で使用する場合は、銅製送油管（別売）を使用してください。

■オイルタンクと機器本体との距離を離す



- オイルタンクは防火上有効な壁がない場合、 機器から2m以上離す。
- 据置式のオイルタンクの場合、不燃材の床上に設置する。



■設置前に以下のことを確認する

- この機器は給湯・シャワー以外には使用しない。
  機器の故障の原因になります。
- この機器は家庭用機器です。業務用など長時間使用しますと、機器の寿命が極端に短くなります。
- 太陽熱温水器との接続はできますが、設定した給湯温度に関係なく高温のお湯が出るなど、やけどのおそれがあるため注意する。
- 温泉水や井戸水を使用しない。水道法に定められた飲料水の水質基準に適合しない水を給水した場合、機器を腐食させることがあります。

■床面の材料および周囲の材料と機器との距離

- 床面は金属以外の不燃性で、水平で丈夫な場所に設置するか、または防火上有効な措置を講じた金属製の台上に設置する。
- 機器の周囲は不燃材（コンクリート、コンクリートブロック、モルタル、しっくいなど）で仕上げる。
- 火災予防上の所定の距離を充分とる。
- 保守点検スペースを600mm以上あける。
- この機器は壁近接型です。後面のみ10mm以上にすることができます。

⚠ 注意

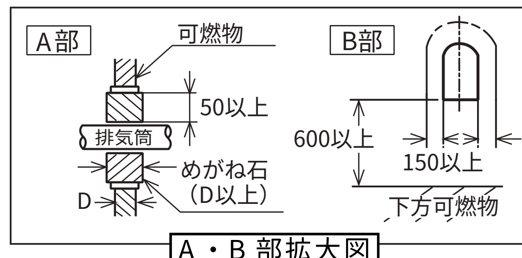
■可燃物との距離は離す
標準設置図例

木材などの可燃物との離隔距離が火災予防条例で下図のように規制されていますので必ず守る。

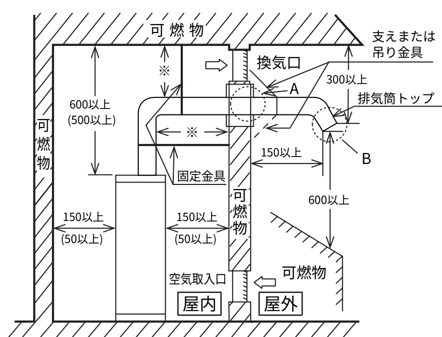


- ●※は排気筒径の半分以上
- ●（　）内は防熱板などを使用の場合
- ●排気筒は固定金具で 1.5 ～ 2m 間隔に固定する。
- ● ◎は保守点検スペースとして 600mm 以上あける。
- ●排気筒、排気筒トップは呼び径φ 106mm を使用する。
- ●★印寸法は防火性能評定認定品のため設置できる寸法です。（非認定品は通常 150mm 以上必要です。）

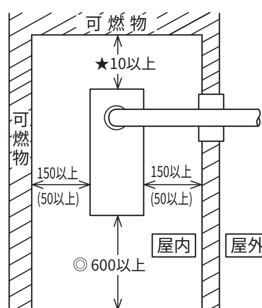
（単位：mm）



A・B 部拡大図



正面図



平面図

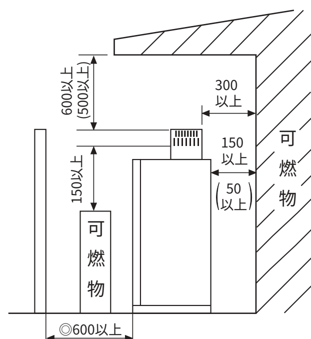
【屋外用排気トップ（別売）を取り付け、屋外で使用する場合】

木材などの可燃物との離隔距離が火災予防条例で下図のように規制されていますので必ず守る。

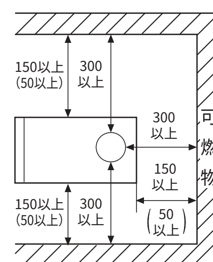


- ●（　）内は防熱板などを使用の場合
- ● ◎は保守点検スペースとして 600mm 以上あける。

（単位：mm）



正面図



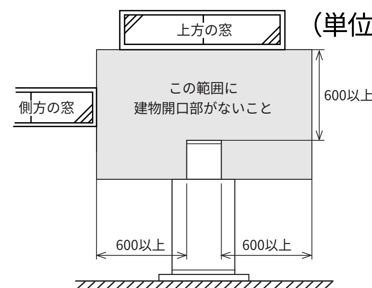
平面図

●排気口の点検

取り付けが終わったら、もう一度点検する。
次のような取り付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、必ず修正する。

・排気口と開口部は 600mm 以上のこと。

（単位：mm）





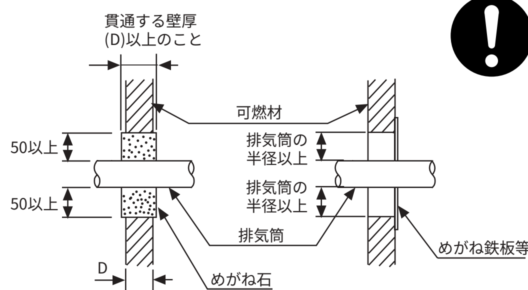
⚠ 注意

■排気筒の家屋貫通部の注意

●小屋裏、天井裏などにある部分は金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆をおこなう。
●可燃性の壁、天井、小屋裏、天井裏などを貫通する部分およびその付近では排気筒の接続はしない。

（単位：mm）

排気筒が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石かめがね鉄板を使用する。



排気筒の延長は 7m-3 曲がり以下で施工されていますか。

■排気筒の固定

●排気筒は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定する。
●排気筒は 1.5m ～ 2m おきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊金具で堅固に支持する。

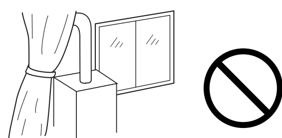
■空気取入口の設置

●空気取入口、換気口を必ず設ける。
●空気取入口、換気口がない場合、不完全燃焼から人身事故につながるおそれがあります。

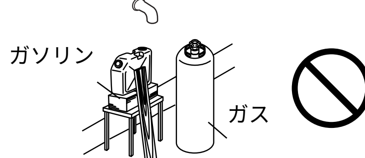
■排気筒の点検

●取り付けが終わったら、もう一度点検する。
●次のような取り付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、必ず修正する。

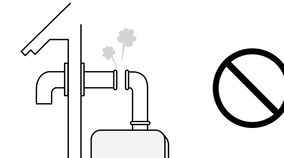
●可燃物近接禁止



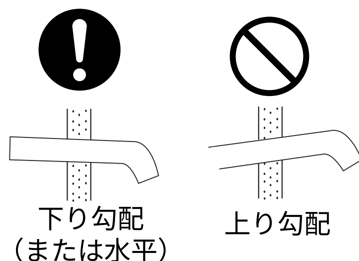
●危険物近接禁止



●接続部のゆるみ禁止



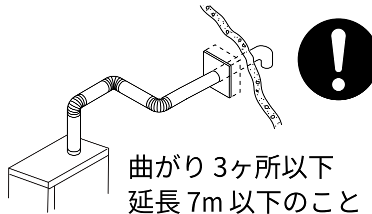
● 下り勾配のこと



下り勾配
（または水平）

上り勾配

● 7m-3 曲がり以下のこと
（排気延長の場合）



曲がり 3ヶ所以下
延長 7m 以下のこと

● 排気筒トップと建物（隣家を含む）の開口部（窓など）は600mm以上離れていること

■集合煙突利用の禁止

排気筒は絶対に集合煙突に接続しない。

1. 付属部品の確認

※梱包内には取扱説明書・工事説明書（本紙）以外に、下記の付属部品が入ってますので、取り付けの前に確認します。

※梱包内の機器を静かに取り出します。

部　品　名	形　　状	個数	部　品　名	形　　状	個数
ゴム製送油管 (2.5m)		1	タッピンネジ		4
ゴム製送油管 締付バンド		2	丸皿小ネジ		2
タケノコパイプ セット		1	オールプラグ		2
オイル接続管		1	丸皿木ネジ		2
操作部カバー		1	化粧カバー		1
排気筒トップ		1			

2. 機器の設置

■設置場所の選定

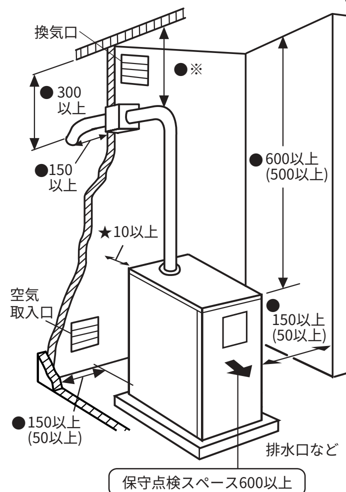
設置場所は水道工事・電気工事などの付帯工事のできる場所にする。
また、火災予防上の所定の距離、隣家への防音上の配慮が必要です。
設置場所を選定するときは、次の各項をよく吟味してから決める。

●標高 500 〜 1000m の高地での設置の場合は、ハーネスのコネクタ切替をする。
（4. 電気配線工事・高地対応の項を参照ください。）

●標高 1000 mを越える高地には設置しない。
（空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足するため。）

●屋外には設置しない。

（単位：mm）



- ※は排気筒の半径以上
- （　）内は防熱板などを使用の場合
  機器後面の10mm以上の寸法は防火性能評定認定品のため設置できる寸法です。
  （非認定品は150mm以上必要です。）

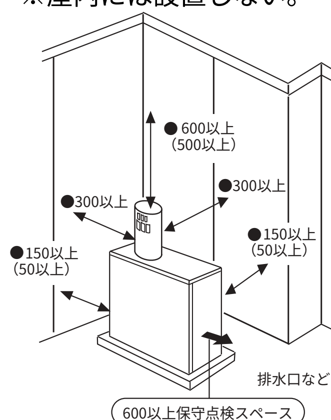
1	十分換気のおこなえる場所かどうか
2	排気筒を基準通りに設置できる場所かどうか
3	周囲は不燃材で仕上げてあるかどうか
	周囲が可燃物の場合、火災予防上の所定の距離(図の●印で示す寸法)が十分とれる場所かどうか
4	床面は不燃性の安定した場所かどうか
5	排水のしやすい場所かどうか
6	設置後の保守・管理がおこなえる場所かどうか
7	付近に燃えやすい物がない場所かどうか
8	湿気の少ない場所かどうか
9	オイルタンクを安全に設置できる場所かどうか
10	騒音公害にならない場所かどうか
	設置場所の選び方次第で騒音は非常に変わります。騒音公害とならぬよう、十分配慮して設置場所を選択する。

★給湯接続口部の過圧防止安全装置に接続した排水ホースから、機器の使用後、少量の水が出ますので床面の防水処理、排水口の設置などの適切な処置をする。

【屋外用排気トップ（別売）を取り付け、屋外で使用する場合】

※屋内には設置しない。

（単位：mm）



- （　）内は防熱板などを使用の場合

★給湯接続口部の過圧防止安全装置に接続した排水ホースから、機器の使用後、少量の水が出ますので床面の防水処理、排水口の設置などの適切な処置をする。

1	十分換気の行える場所かどうか
2	排気のスペースが確保できる場所かどうか
3	周囲は不燃材で仕上げてあるかどうか
	周囲が可燃物の場合、火災予防上の所定の距離（図の●印で示す寸法）が十分とれる場所かどうか
4	床面は不燃性の安定した場所かどうか
5	排水のしやすい場所かどうか
6	設置後の保守・管理がおこなえる場所かどうか
7	付近に燃えやすい物がない場所かどうか
8	湿気の少ない場所かどうか
9	オイルタンクを安全に設置できる場所かどうか
10	騒音公害にならない場所かどうか
	設置場所の選び方次第で騒音は非常に変わります。騒音公害とならぬよう、十分配慮して設置場所を選択する。
11	機器の設置に当たっては、木造住宅の２階外壁の横など機器の修理、点検が困難な場所には設置しない。

■設置方法

●機器の設置

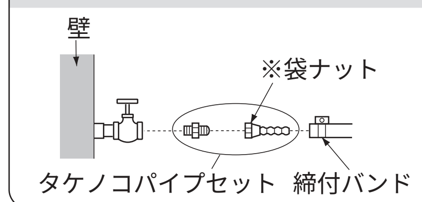
機器は水平に設置します。

●送油配管とオイルタンクの設置

付属部品は状況に応じて、必要な部品を使用する。
すべて使用する必要はありません。

※袋ナットは締め付けトルク
1470～1960N・cm
(150～200kgf・cm)
で締め付ける。

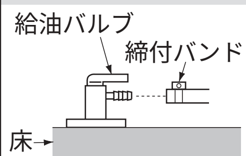
壁から給油バルブが出ている場合



機器との接続

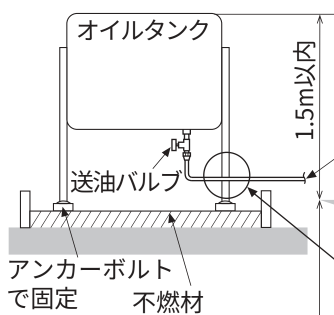


床から給油バルブが出ている場合



送油配管の空気抜きの方法

オイルタンクの送油バルブを開き、オイルストレーナの空気抜きネジをゆるめる。
空気が抜けたら、空気抜きネジを元通り締め付ける。



壁貫通部、埋設部は銅管または鋼管で配管

屋外　屋内

ゴム製送油管（付属品）

オイルタンク設置について

●防火壁がない場合
機器との間を2m以上離す。

●200ℓ以上、1000ℓ未満のオイルタンクを設置する場合は、所轄の消防署へ設置届けが必要となります。ただし、個人の住居用で200ℓ以上、500ℓ未満のオイルタンクを設置する時には、設置届けが不要となる場合があります。詳しくは各地域の火災予防条例にしたがってください。（所轄の消防署に確認してください。）

タンク容量	設置届けの要否	備考
200ℓ未満	設置届けは不要です。	――
200ℓ以上、500ℓ未満	設置届けが必要です。（個人の住居に設置するときには設置届けは不要となる場合があります。）	詳しくは各地域の火災予防条例にしたがってください。（所轄の消防署に確認してください。）
500ℓ以上、1000ℓ未満	設置届けが必要です。	――

送油配管について

●ゴム製送油管は弊社指定品（付属品）を使用する。
これは日本燃焼機器検査協会の検査合格品です。
（ゴム製送油管は年1回の割合で点検し、ひび割れが生じていないか確かめます。また経年劣化しますので、3年に一度は交換します。）

●屋内側は付属のゴム製送油管またはJIS S3022に適合したゴム製送油管を使用する。屋外側は全体の長さが10m以内のときはφ8の銅管を使用し、10～20m以内のときは15A(1/2B)の銅管または鋼管を使用する。

●配管途中に空気だまりができないようにする。（右図参照）

●配管の接続部分は変形、キズ、バリなどがないようにする。

●配管に切削粉や汚れがついている場合は灯油（JIS1号灯油）でよく洗う。

●他機器と分岐配管で使用する場合は、同時使用しても油が充分に供給され、正常運転することを確認する。

⚠注意

屋外配管部には、ゴム製送油管を使用しない。

3. 給水・給湯配管工事

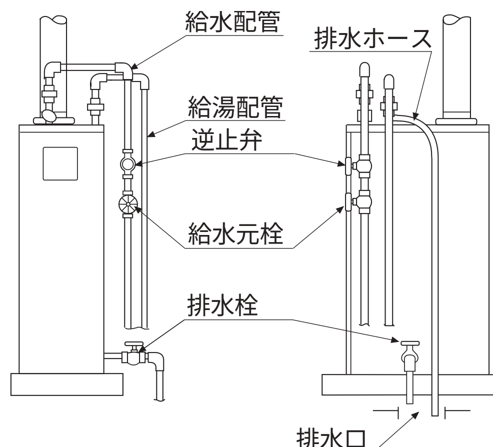
配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定にしたがう。

■配管工事

●配管材料

・給湯配管には、鉛管・水道用塩ビ管は使用しない。
・銅管を使用する場合、銅管と継手類（ソケット・エルボ等）は必ずろう付けにて接続する。はんだ付けは強度がなく、腐食のおそれがあるため適しません。
・機器との接続にフレキシブルチューブを使用する場合は、地域の水道条例によって規制されている場所がありますので、ご注意ください。

（設置参考図）



●給水・給湯配管上の注意

・配管を機器に接続する前に、給水元栓を開け配管内のゴミ、砂などを排出する。そして接続後、通水試験を必ずおこなう。
・給水配管の接続部には、機器の給水接続口の近くに逆止弁を設けるか、逆止弁付の給水元栓を必ず取り付ける。また、給水接続口と逆止弁との間の配管には、銅管を使用し、塩ビ管を絶対に使用しない。
・継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管は避ける。
・配管途中にエアーだまりのできるような配管は避ける。

●給水圧力について

・機器の性能を維持するためには、機器の最低作動水圧 9.81kPa（0.1kgf/㎠）＋配管の損失水圧（特にシャワーヘッドの損失水圧＋位置水頭〔給湯する一番高い位置〕）＋α（余裕）を加算した給水圧力が必要です。
給水圧力が十分あることを確認する。
※余裕αは幅広い湯温を得るためには、29.4kPa（0.3kgf/㎠)以上を加算します。
・台所用、ふろ用の給湯栓の中には、非常に圧力損失の大きい泡沫水栓がありますが、これは水圧 98.1kPa（１ kgf/㎠)以下の現場には使用しない。
・シャワーヘッドは、圧力損失の少ない瞬間湯沸器用を使用する。

●保温

・保温工事は、通水・水漏れテストで異常がないことを確認した後、おこなう。
・配管にはすべて保温をする。

●排水配管についての注意

・排水接続口からの排水配管途中には必ず排水栓を設ける。
・給湯接続口の過圧防止安全装置に接続した排水ホースから、機器の使用後、少量の水（湯）が出るため、床面の防水処理、排水口の設置などの適切な処置をする。

■配管の凍結予防

※沖縄を除く日本全国の各地で凍結が発生する気温が記録されています。したがって、寒冷地はもちろんのこと、寒冷地以外の地方でも凍結することがあります。油断せず、凍結予防を考慮した工事をおこなう。

●配管の凍結による破損を予防するため、必ず次のいずれかの方法をおこなう。

・給水・給湯配管や、給水元栓などには保温材を巻く。
・寒冷地では、保温材だけでは不充分なので、水道配管用電気ヒータを巻きつける。

※機器内の凍結予防ヒータでは、給水・給湯配管や、給水元栓などの凍結は予防できません。必ず保温材または電気ヒータを巻くなどの処置をする。

4. 電気配線工事

電力会社の指定工事店に依頼し、所定の配線をしてください。なお、工事は電気設備基準に準じておこなう。

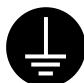


全ての電気配線工事が完了するまで、機器の電源プラグをコンセントに差し込まない（電源を投入しない）。
感電・機器の故障の原因となります。

- 機器から約1.8m以内にコンセントが必要です。
- 機器の電源は、AC100V(50/60Hz共用)です。
  消費電力は銘板で確認のうえ必ずこれに適したコンセントを設ける。
- 電源にタンブラスイッチを使用しない。タンブラスイッチで電源を切にすると、機器内の凍結予防ヒータが作動せず、凍結破損の原因となります。
- 電源コードが余った場合は、機器外でまとめ機器内には入れない。機器の故障の原因になります。



■接地（アース）工事

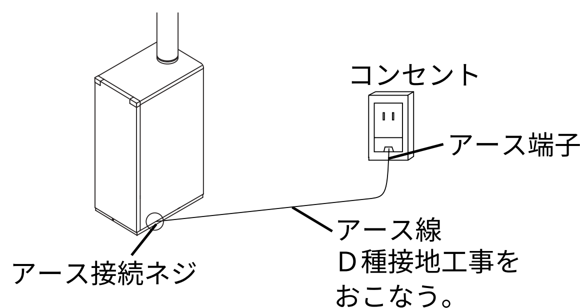


- 万一の感電事故防止のため、電気工事士によるD種接地工事（接地抵抗100Ω以下）を必ずおこなう。
- 接地端子は機器の底面にあり、アース表示しています。

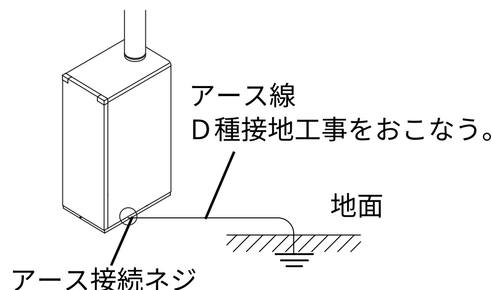
D種接地工事は法令で規定されています。
基準に適合しない場合は、機器の使用停止を命じられる場合があります。

(注記)
水道には接地しない。また、電話・避雷針のアースにも接地しない。

● JISアース端子付の場合



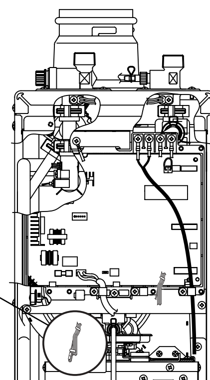
● JISアース端子付でない場合



■高地対応

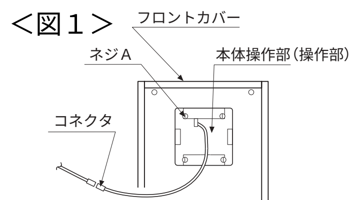
- 標高500～1000mのとき、機器のフロントカバーをはずし、高地切替えコネクタを抜く。

標高	赤色コネクタ
標高 500～1000m	抜く 高地切替えコネクタ



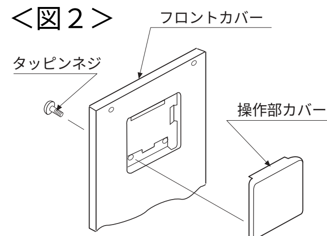
■本体操作部を台所リモコンとして使用する場合

操作部を機器から取りはずし、台所リモコン(以降リモコンという)として使用することができます。
ただし、リモコンコード(別売品)が必要です。
※屋外で使用する場合は、必ず機器から取りはずしてください。



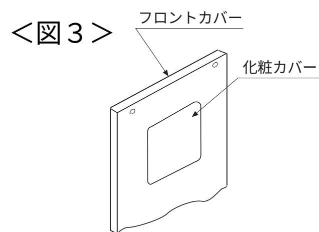
(１)操作部(リモコン)の取りはずし方<図１>

1. フロントカバーをはずす。(ネジ２本)
2. 機器側に接続されているコードのコネクタをはずす。
3. 操作部を取りはずす。(ネジA４本)



(２)操作部(リモコン)をはずした後の処置

1. 付属品の操作部カバーを付属品のタッピンネジ４本で固定する。<図２>
2. 付属品の化粧カバーのはくり紙をはがし、操作部カバーの外側に貼る。(操作部カバー全周より10mm程度はみ出す位置に貼る。)<図３>



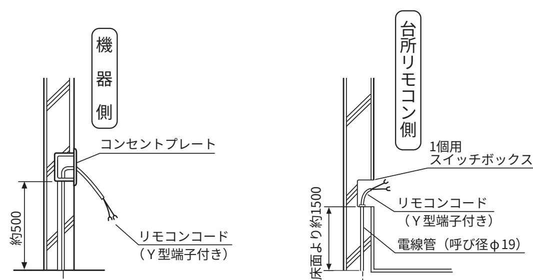
■リモコンコード(別売品)の配線のしかた

※リモコンコードを配線する時は、両端の表示を確認する。

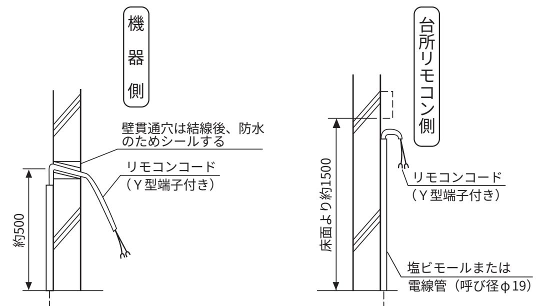
・Y型端子(２芯)　→　リモコン側
・Y型端子(２芯)　→　機器側

●リモコンコード配線図(単位：mm)

【壁埋込配線の場合】



【露出配線の場合】



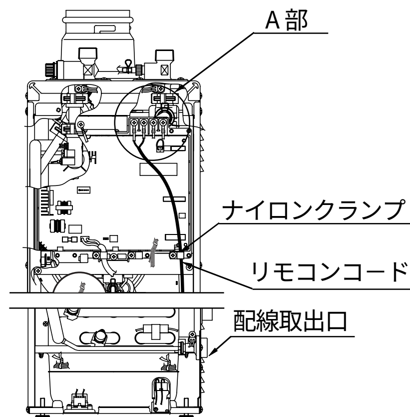
■機器とリモコンコード（別売品）の接続

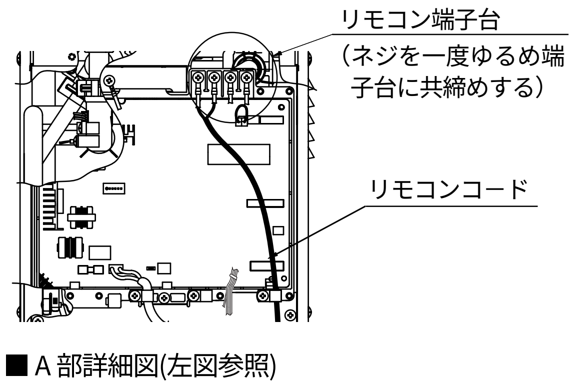
(注記)

※リモコンコードが余った場合は機器外でまとめ、機器内には絶対入れない。
※リモコンコードは1つの端子台に2本まで共締め可能です。
※リモコンコードのＹ型端子は樹脂スリーブ付を使用する。
（スリーブがないものは、銅線が腐食し不良の原因になります。）
※端子台へのネジ止めは必ず手締めでおこない、電気ドライバーは絶対に使用しない。
端子台が破損する恐れがあります。

1. 機器のフロントカバーをはずす。（ネジ2本）
2. リモコンコードを配線取出口から機器内に引き込む。
3. リモコン端子台にリモコンコードのY型端子を接続する。（端子に極性はありません。）
4. リモコンコードを機器内のナイロンクランプで固定する。

※リモコンコードはリモコン端子台に必ず取り付ける。





■ A部詳細図(左図参照)

■リモコンの取り付け

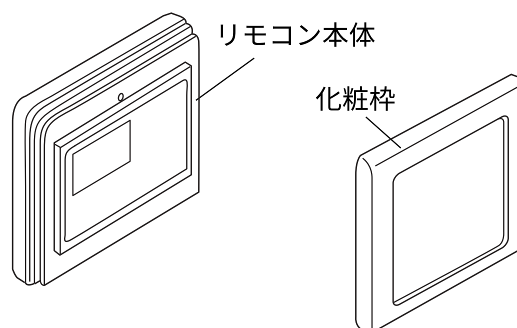
●設置前のご注意

下記の場所には取り付けない。

・温度の高くなるところ（ガスコンロ付近など）
・直射日光の当たるところ（窓際など）
・湯気のかかるところ（ガスコンロ、炊飯器などの付近）
・水しぶきのかかるところ（給湯栓付近など）
・油のかかるところ（ガスコンロ付近など）
・特殊薬品を使用するところ（ベンジン、油脂系の洗剤など）
・台所リモコン（本体操作部）は浴室内に取り付けない。
・ネジ止めは必ず手締めで行い、リモコンががたつかない程度に締め付ける。電気ドライバー、インパクトドライバーなど、絶対に使用しない。締め付け過ぎるとリモコンが破損します。

●取り付け方

（1）化粧枠をはずす。
（化粧枠は、はめ込み式になっています。）



（2）リモコン裏面の端子台にＹ型端子を接続する。
※露出配線（壁への固定）の場合、先にリモコン本体のコード取入口を、ニッパーなどで開ける。
（基板を傷つけないように注意する）

スイッチボックスへの固定の場合	壁への固定の場合
リモコンコード スイッチボックス（現場手配品） リモコン裏面	

スイッチボックスへの固定の場合	壁への固定の場合	
	木質壁面の場合	コンクリート壁面の場合
付属の丸皿小ネジを使用して、台所リモコンをスイッチボックスに固定する。 この場合は、オールプラグと丸皿木ネジは使用しません。 スイッチボックス（現場手配品） リモコン本体 丸皿小ネジ	付属の丸皿木ネジを使用して台所リモコンを固定する。 この場合は、オールプラグと丸皿小ネジは使用しません。 リモコン本体 丸皿木ネジ	台所リモコンの固定用穴（φ6×深さ25～30mm）をあけ、オールプラグを打ちこむ。次に、丸皿木ネジを使用して固定する。 この場合は、丸皿小ネジは使用しません。 オールプラグ リモコン本体 丸皿木ネジ

※ネジ止めは必ず手締めで行い、リモコンががたつかない程度に締め付ける。

（3）先に取りはずした化粧枠を取り付ける。

5.排気筒の取り付け

※排気筒の取り付け、取り替え工事は専門業者に依頼する。
※排気筒の取り付けは3ページの「可燃物との距離は離す」を満足させる位置に取り付ける。

■給気口（空気取入口）と換気口の設置

- 給気口および換気口を設ける。
- 給気口および換気口は必ず外気に通じているところに開口していることが必要です。
- 給気口の有効面積は520㎠以上にしてください。
- ガラリを取り付けた場合は、ガラリの種類に応じて開口率を考慮して給気口の有効面積を算出する。また、ガラリ開口部はほこりなどでつまらないように最小すき間を8mm以上とし、防虫網は清掃ができるものにする。
- 換気扇がある部屋に機器を設置する場合は、換気扇風量も考慮の上、上記有効面積より大きい給気口を開ける。

・1台当りのガラリなどの実面積
　＝1台当り有効開口面積÷開口率

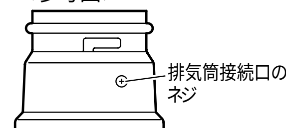
ガラリの種類	開口率（%）
スチールガラリ	50
木製ガラリ	40
パンチングパネル	30

（例）　スチールガラリを取り付けた場合は
　　　520÷0.5＝1040㎠以上となります。

■排気ガスを屋外へ排出し機器の安定性を保つため、また火災予防上、安全性のために必ず下記の点を厳守する

- 排気筒の材質
  - ・ステンレスやアルチタンなど耐久性の良いものを使用する。ブリキ、鉄板は錆のため、耐久性が劣ります。
- 排気筒の内径
  - ・規定の大きさに合わせて調達すること。（内径106㎜）
  - ・途中で細くしたり、太くしたりしない。
- 排気筒と可燃物との間隔
  - ・排気筒を設置する場所の周囲は防火上安全なものであるか、または安全な距離を保つ。
- 排気筒延長限界
  - ・排気筒の長さは7m-3曲がりまでとする。（排気筒トップの曲がりは除く）
  - ・排気筒の長さは防火上の寸法を確保した上で、できるだけ短くする。
  - ・排気筒の横引きは、排気筒トップに対して下り勾配(1/50)とする。
- 排気筒の固定
  - ・排気筒は風や振動などで倒れないよう支え金具や支線などで固定する。
  - ・排気筒は1.5m～2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具でしっかりと支持する。
- 排気筒の接続
  - ・機器の排気筒接続口のネジで排気筒を固定する。
    （排気筒接続口のネジ位置に合わせて、排気筒にφ 4.5 ～ 5 の穴をあける必要があります）
  - ・排気筒の接続部は耐熱アルミテープ（現場手配）で必ずシールする。
  - ・排気筒の接続部は抜け止め防止処置をおこなう。

<参考図>



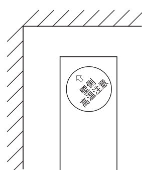
- 排気筒を集合煙突に接続しない
- 設置後の点検
  - ・設置後に1ページ以降の⚠警告・⚠注意を参照し正しく設置されている事を確認する。

■屋外用排気トップ(別売)を取り付け屋外で使用する場合

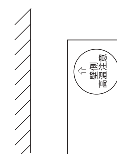
取り付けが終わったら、もう一度点検する。
取り付け方向を間違えると、不完全燃焼を起こすことがあるため必ず修正する。

●排気筒トップの取り付け方向

1. 二方向が壁の場合
   排気トップ天板の矢印が壁と壁との角にくるように排気トップを取り付けてネジ止めする。



2. 一方向が壁の場合
   排気トップ天板の矢印が壁側にくるように排気トップを取り付けてネジ止めする。



6. 試　運　転

※正しく設置されていることを確認してから、次の要領で必ず試運転をおこなう。
※試運転はお客様と共に必ずおこなってください。

■運転準備

1．オイルタンクに灯油を入れる。
2．給油後、送油経路の空気抜きをおこなう。
3．送油管や機器から油漏れがないことを確認する。
4．水抜き栓、排水栓が確実に閉まっていることを確認する。
5．給水元栓を開き、給湯栓から水が出ることを確認する。
6．配管（給水・給湯）や機器から水漏れがないことを確認する。
7．電源プラグがコンセントに完全に差し込まれていることを確認する。

■運転

●運転開始手順

1．リモコンの運転スイッチを「入」にする。
2．給湯栓を開いて湯が出ることを確認する。

※万一未着火を起こした場合には燃焼制御装置の働きで運転が自動的に停止します。このときはリモコンの運転スイッチをいったん「切」にして3秒程待ち再び「入」にし、給湯栓を開けて燃焼ランプが点灯することを確認する。着火するまでこの動作を数回くり返す。
（このとき発する「ビー」音は、電磁ポンプの空打ち音であり、故障ではありません。）

●正常運転の目安

1．排気筒トップからススが出ていないこと。
2．機器から異常な音がしていないこと。

●正常運転しない場合は、取扱説明書の「故障・異常の見分けかたと処置方法」を参照する。

■消火の手順

1．給湯栓を閉める。
2．リモコンの運転スイッチを「切」にする。

※試運転が終わりましたら、給水接続口のフィルターにたまったゴミなどを掃除する。
（次のページの「給水接続口（水抜き栓）のフィルターのはずし方」を参照）

■お客様への説明

●取扱説明書に従って「使用方法」を説明してください。特に取扱説明書の「特に注意していただきたいこと」をよく説明してください。

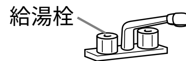
●保証書に必要事項を記入する。
また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明してください。

●取扱説明書（保証書付）をお客様に渡してください。

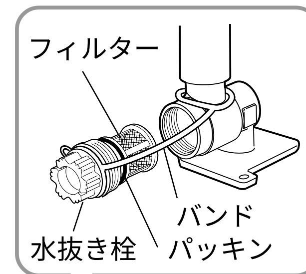
■凍結予防の水抜き

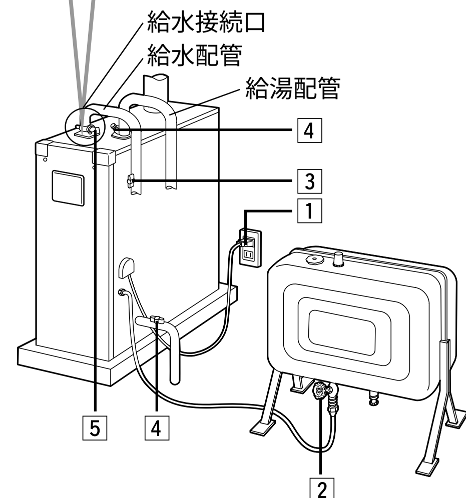
通水後、配管や機器内に残った水は、お客様が使用されるまでの期間放置すると、凍結して機器が破損するおそれがありますので、次の方法で完全に水を抜きとる。

1. リモコンの運転スイッチを「切」にする。
2. 電源プラグ1を抜く。ぬれた手でさわらない。
3. 送油バルブ2を閉める。
4. 給水元栓3を閉める。
5. すべての排水栓4を開ける。
6. 水抜き栓（フィルター付）5を左に回して開け、はずす。
7. すべての給湯栓を全開にする。
8. 7の操作より10分以上経過後、完全に排水したことを確認し排水栓4と水抜き栓（フィルター付）5および全ての給湯栓を閉める。



（設置参考図）





■給水接続口（水抜き栓）のフィルターのはずし方

1. 給水元栓3を閉める。
2. すべての給湯栓を開ける。
3. 水抜き栓5をはずす。（※1）
4. 配管とつながっているバンドから水抜き栓をはずす。
5. フィルター部分を歯ブラシなどで水洗いする。（※2）
6. 元通りに水抜き栓5を取り付ける。
7. すべての給湯栓を閉める。
8. 給水元栓3を開け、水抜き栓5の周囲に水漏れがないことを確認する。

（※1）このとき水（湯）が出るので注意する。
（※2）水抜き栓からフィルターがはずれた場合は、水抜き栓とフィルターの間のパッキンをなくさないように注意する。

■再使用のとき

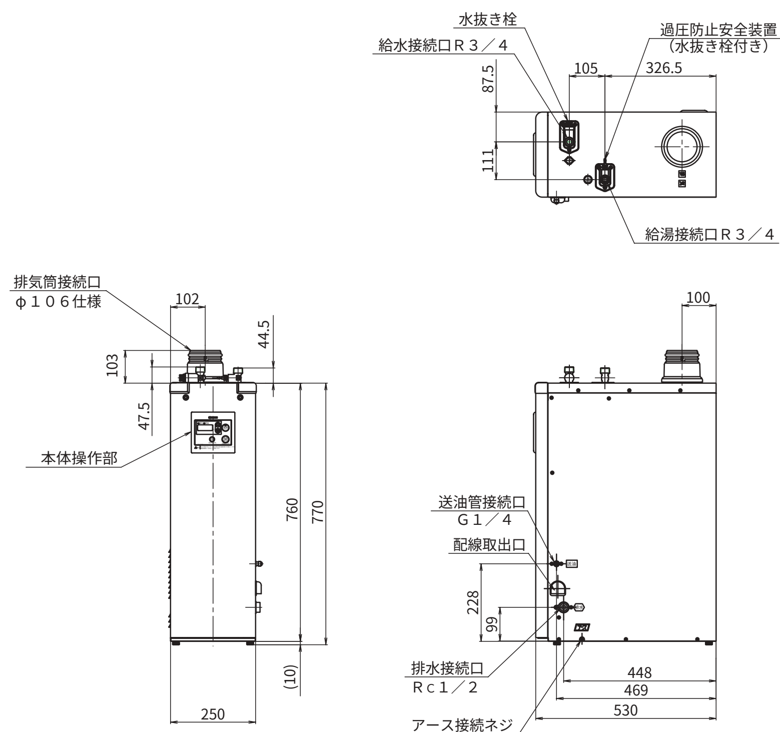
1. すべての排水栓4、水抜き栓5が閉まっていることを確認する。
2. すべての給湯栓が閉まっていることを確認する。
3. 給水元栓3を開く。
4. すべての給湯（給水）栓を開け、水の出ることを確認し、再度閉める。
5. オイルタンクの送油バルブ2を開ける。
6. オイルタンクや送油管の接続部などから油漏れがないか確認する。
7. 電源プラグ1をコンセントに差し込む。

7. 廃棄するときの注意

※機器を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

外形寸法図

（単位：㎜）



■ リモコン（操作部）
M-034DS

